

〈序〉

サムエルは年老いたとき、後継者として息子たちをたてた。しかし、二人の息子たちはサムエルのように歩まず、主が嫌われる歩みをした。若いころサムエルは、師であるエリが息子たちを正しく主の御前に歩ませることが出来なかったのを心痛めつつ見て来たはずである。しかし、今自分もまた同じ轍を踏むこととなった。

〈王を求める民たち〉

サムエルが後継者を正しくたてられなかったからか、民は王を求めるようになった。そのことは主の目にもサムエルの目にも悪く映ったが、主は民の声を容認された(8章)。

〈ベニヤミン族のキシユの息子〉

民のこの声が主に届き、主はこの民に王を与えることを容認された。それはベニヤミン族に属するキシユの子、サウルであり、彼は美しい若者で身長も他のイスラエル人たちより秀でていた。

〈サムエルとサウルの出会い〉

ある時、キシユのロバが行方不明になり、息子のサウルがこれを探しに出た。ロバが見つからないまま、サウルは家に帰ろうとしたが、従者が先見者の所に行って神託を求めるように勧めた。サウルはこの勧めに従って、先見者サムエルに会うために、その神の人のいる町へ向かった。

サウル一行が先見者、神の人、サムエルに会う前日、主はサムエルにベニヤミンから来る一人の男に油を注ぎ、その男を神の民イスラエルの指導者として立てるようにと告知らせておられた。

主の予告通り、サウルはサムエルを訪ねた。そして、サムエルはサウルに共に食事をするのを勧め、ロバの行方も心配するには及ばないことを伝え、更に、イスラエル全家の期待がキシユの子サウルにかかっていることを告げた(9:1-20)。

〈わたしは小さなものです〉

サムエルからイスラエルの指導者として自分が立てられると聞いたサウルは、自分は小さな者ゆえ、その任に就くことにためらいがあると伝えた(9:21)。主から召しを受けた者の多くは、自分の弱さ、足りなさ、小ささに二の足を踏むものである。モーセ、ギデオン、エレミヤも自らの弱さのゆえ主の召しにたじろいだ者たちである。

〈油注ぎ〉

サムエルは主の御告げに従って、油のつばを取り、サウルの頭に油を注ぎ、主がサウルを神の民の指導者としてたてられたことを宣言した。

「油注がれた者」とは新約時代に移ると「キリスト」という称号で呼ばれるようになる。旧約時代は王、預言者、祭司が、神から特別の任務が与えられ、神がそれぞれの任に耐えるようにと「油注ぎ」により賜物が付与されることを表した。

〈サウルも預言者の一人か〉

預言者の一団と出会ったサウルは、預言の霊が与えられ彼らのただ中で、サウルもまた預言する状態になった。しかし、その特別の状態は継続することなく、預言する状態は一時的なものであった。当時の預言する状態がどのようなものであったか分からないが、「主の霊が激しく降り」(10:6, 10)という表現から、主の霊の導きのもとになされる一定の預言的行為であった。

〈まことの王であり預言者であるキリスト〉

サウルは油注がれたが、その王職、預言者職はまことに一時的で、はかないものであった。やがてこの職務はダビデに移され、ダビデには、その子孫から永遠に神の民を治めるまことの王が生まれる約束が与えられた。この約束の御方こそ主イエス・キリストである。サウルもダビデもこの真の王が与えられるために、救いの歴史において神に用いられた器である。(芦田高之)

〔単元のねらい〕

神さまは人の求めに応じて、王をたてることを認められた。しかし人の知恵や力にまかせて王を選ぶのではなく、不思議な神のご計画にもとづいて、サウルを選び、油を注いで王としてくださった。人々をペリシテ人から救うために。

しかし、サウルは不完全な人の王であり、やがてその座から追いやられる。けれども、神さまの救いのご計画は人の王の失脚によって頓挫することはない。やがて来られる完全な王、神の子である王イエス・キリストにおいて、完成する。歴史の中に流れる神の救いの御意思に信頼し、今その流れに自分たちがいることを共に覚えたい。

「すべては神さまのご計画のうちに」

今日も、大好きなみんなといっしょに聖書の言葉を聞くことができ、本当に嬉しく思います。

先週は幼かったサムエルさんも、今日の箇所ではすでに老人となっています。サムエルさんは神さまの言葉を生涯聞き続け、彼の時代にはイスラエルの民は敵から完全に守られていました。しかし、かつてエリさんの息子たちが神を知ろうとしなかったことからサムエルさんが選ばれていったのですが、サムエルさんの子どもたちもまた、神さまを知ろうとせず、自分の思いに任せて歩んでいました。その結果が意味するところは、敵によって再び虐げられることになるということです。

そこで、今度は不安になった民のほうからサムエルさんに提案します。「これからは、祭司や預言者ではなく、他の国のように人間の王を立ててください」。この提案に、サムエルさんは腹を立てますが、神さまは、意外にも、「民の言うままに従いなさい」と言われました。しかし、民の本心は見抜いておられました。それは、「彼らが退けたのはあなたではない。彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ」というものでした。この民らの背信行為すらも、神さまは受け入れられ、民の思いをお許しになります。非常に興味深いですね。しかも神さまは、人々は人間の王をいただくことで、搾取されることを覚悟

しなければならない、やがて泣き叫ぶことになるという警告をわざわざ伝えます。そのうえで、民らの意思を尊重されます。ここに、神さまのご計画の大きさということを知るのではないのでしょうか。人間の自分勝手な思いや神さまに対する背信行為すらも、神さまのご計画を超えることはないのです。

さて、イスラエルの民の中でももっとも小さな部族の、さらにその中でも最小の一族にサウルという若者がいました。彼はとても美しく背が高く、大変目を引く青年であったようです。ある日、彼の父親のロバが数頭迷い出てしまいました。そこで、サウルが従者と共に捜しに出かけたのですが、見つかりません。あきらめて帰ろうとすると、従者はこの近くに「神の人」がおられるので、その人に進むべき道を尋ねたらどうでしょうかと進言します。サウルは何も準備をしてきていないことに戸惑いながらも、彼の進言に従って「神の人」のところに行くことを決意します。そして、「神の人」がいるという町に着きました。しかし、その町はよく知らない町でしたから、どうしたら「神の人」に会えるのか分かりません。すると水汲みに出てきた娘たちから、「神の人」に出会うタイミングを聞くことができました。こうして、サウルにとっては思いがけない仕方でしたが、しかし

すべてが備えられて、サウルは「神の人」、それはサムエルさんのことでしたが、彼に会うことができました。

さて、サムエルさんもすでに神さまから油を注ぐべき人物について聞いていました。そしてサウルこそその人だと告げられます。サムエルは慎重にサウルに近づき、「主があなたに油を注ぎ、ご自分の民の指導者とされたのです」と告げました。サウルは非常に戸惑うのですが、神の言葉に従って、頭に油を受けました。

このようにすべてのことが、サウルの思いの外で、神さまのご計画と備えとして、すでにありました。そして、その通りになっていったのです。そこには、神さまがご自分の民をサウルという王によってペリシテ人から救うというご意思がありました。どこまでも、神の御旨は、民を救われようとされます。

それにも関わらず、民は神ではなく、人を求めます。サウルが公に王として選ばれる日、神さまは再び「エジプトから救い出したのはわたしである」とご自身をあらわされますが、人々の、神を退け、人の王を求める思いは変わりませんでした。サウルが人々の真ん中に立ったとき、サムエルは、「主が選ばれたこの人を」と言ってサウルを紹介しますが、民は神を賛美することなく、ただ「王様万歳」と叫んで喜びます。人々が見ているのは、背後にある神さまのご計画やご意思ではなく、自分たちが求めていたこと、人の王さまでした。ですから、サウルが気に入らない人々がいました。彼らは自分たちこそ王にふさわしいと思っていたのかもしれませんが。だから、自分以外の者が王となることを良しとしなかったのです。しかしそこ

でもまた、神さまが働かれ、神さまによって心動かされた勇者たちがサウルに従っていきます。こうして、サウルが王となる準備が神さまによって着々と進んでいったのでした。

このように、神さまを退けるといって、人々の悪い思いすら受け入れられて、救いのご計画を進展なさる神さまは、そのためのすべてを準備してくださる神さまなのですね。

この後、サウルはやがて神さまの御旨からそれていき、王座から転げ落ちていきます。彼はどこまでも不完全な人間の王ですから、人の王によって与えられる救いもまた完全ではないのです。しかし、神さまの人を救おうとなさるご意思は完全であり、神さまの救いの御業も完全です。

このときには人々の意思を取り上げてご計画なさいましたが、やがて神さまご自身の御旨が明らかになっていきます。それはイエスさまにおいてですね。そのために神さまは、独り子イエスさまを世に遣わされ、神の子として真の王とされました。イエスさまこそ完全な王であり、完全な救いをもたらす王です。また民から搾取する王ではなく、十字架によってすべてをささげ、民に与えられる王さまでした。このように神さまの救いのご計画は、人の王によってではなく、神の子の王によって完成しました。

わたしたちはイエスさまという王さまを与えられていることに、今日も感謝いたしましょう。そして、「王様万歳」と言って喜んだ民たちのようにではなく、「イエスさまこそ真の王」、「神の御子イエスさまこそわたしたちの救い主」と言って、神さまの素晴らしい御名を一緒に賛美しましょう。
(草野 誠)

[今週の暗唱聖句] サムエル記上 9章16節 (前半)

明日の今ごろ、わたしは一人の男をベニヤミンの地からあなたのもとに遣わす。

あなたは彼に油を注ぎ、わたしの民イスラエルの指導者とせよ。



〈ねらい〉

今日は王様になったサウルさんのお話をしたいと思います。

みなさんは、サムエルさんのお話を覚えていますか？ 神さまのお声を聞き、神さまに従って生きたサムエルさんも、だいぶ歳をとりました。すると、それまで神さまに従い、サムエルさんのお話を聞いていた人たちも、だんだんとサムエルさんの言うことをきかなくなってきました。そして、「自分たちにも王様が欲しい」と言い出したのです。神さまに守ってもらうよりも強くて賢い王様に守ってほしいと思ったのです。これには、神さまもサムエルさんも、とても悲しい気持ちになりました。神さまより強くて優しく、賢い人なんていませんからね。それでも人々はみんな「王様が欲しい！」と言い張ったのです。目に見えない神さまでなく、人間の王様が欲しくなってしまったのですね。それでも神さまは、人々の願いを聞いて王様を選んでくださいました。そして、サムエルさんに王様になるのが誰かを教えてくださったのです。

はじめの王様に選ばれたのは、サウルという若者でした。サウルさんは背が高くとても素敵なお父さんでした。ある日、サウルさんのお父さんが飼っていたロバが何頭か迷子になり、いなくなりました。そこで、サウルさんはお父さんに頼まれてロバを捜しに出かけました。何日もかけて、

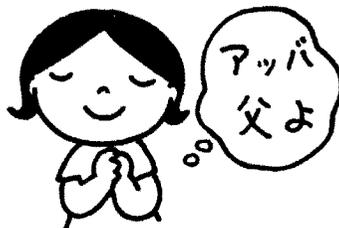
いろいろな所を捜したのですが見つかりません。そこであきらめて家に帰ることにした時、近くにサムエルさんがやってくることを聞きました。でも、どこに行ったら会えるのかは分かりません。すると、たまたま出会った人が、居場所を教えてくださいました。こうして、サウルさんは不思議な導きでサムエルさんに会うことが出来たのです。

実はその前の日、サムエルさんも神さまから、「明日ひとりの若者と会うでしょう。その人が王様になるひとです。王さまになるしるしに、頭に油を注ぎなさい」と言われていました。

神さまのご計画の通りに、サムエルさんとサウルさんは出会うことが出来ました。そしてサウルさんは頭に油を注がれて、神さまから王様になる約束を与えられたのです。人々は、自分たちの王様が決まったことをとても喜びました。そしてみんなで声を合わせて「王様万歳!!」と叫びました。

このようにして神さまは、サウル王様をたて、周りの国から人々を守ってくださいました。その後もたくさんのお王様が与えられていきますが、私たちの本当の王様であり、守ってくださるお方はただお一人、神さまの子イエスさまです。ですから私たちは、いつもイエスさまを賛美し、イエスさまの後につながって歩いていきましょう。

※67号123ページに〈やってみよう・遊びのアイデア〉を掲載。



〈ねらい〉

救いは神の御手のなかにあること、神は叫び求める御自身の民を救いだすために、人を召し出しそのつとめに当たらせられることを教える。そのためにイスラエルの歴史で、初めてサウルが王としてたてられた。しかしそれはイスラエルの人々が地上の王を求めて、まことの王であられる神を退けることでもあった。私たちのまことの王の王、主の主とはだれか。それは主イエス御自身であることを伝えたい。

〈展開例〉

時間があれば、今までの士師の時代を振り返り、これから統一王国時代を迎えようとしている、大きな歴史の流れを話してみる。

〈ワーク〉

【Q1】 いろいろな人が出てきましたが、中心人物は (A) と (B) です。

【Q2】 この二人はどんな働きをしましたか？
Aさんは () でした。また () とか () とも呼ばれています。サムエル上3章20節、同9章9、10節などを参照。

Bさんはイスラエルの ()、() として召されようとしています。サムエル上9章16節、同10章19、24、25節などを参照。

【Q3】 その頃、イスラエルの人々は、() 人によって苦しめられていました。

【Q4】 神さまはイスラエルの人々をどのように

しようとお考えでしたか？

【Q5】 イスラエルの人々は、どのように考えていたのでしょうか。サムエル上10章17-19節にはどのように書いてありますか。みんなで話し合ってみましょう。

【Q6】 神さまに王として召されたサウルは、どのような人でしたか。サムエル上9章1、2節をもとに話し合ってみましょう。

【Q7】 サウルは、人々が王にしようとしたとき、どこにいましたか。サムエル上10章22節を参照。なぜ、そのようなことをしていたのでしょうか。話し合ってみましょう。サムエル上9章21、10章27節などを参照。

【Q8】 私たちのまことの王はどなたでしょうか。

〈お祈り〉

天のお父さま。私たちを愛して、私たちといつも一緒にいてくださるイエスさまが私たちのまことの王さまです。どうか私たちをお守りください。そして、私たちも、イエスさまの御声を聞いて、イエスさまに従うことができますように。

〈答え (参考)〉

【Q1】 A：サムエル
B：サウル

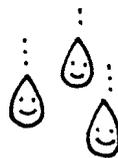
【Q2】 A：預言者、先見者、神の人
B：指導者、王さま

【Q3】 ペリシテ

【Q4】 彼らの手から救い出す

【Q6】 ベニヤミン族のキシユという人の子、美しい若者、背が高い、など

【Q7】 荷物の間に隠れていた



〈ねらい〉

サムエルは御告げにより、サウルに油を注ぎました。新約時代になると、「油注がれた者」とはイエスさまです。サウルが、イエス様が与えられるための救いの歴史において用いられた人であることを知りましょう。

〈展開例〉

今日は、神の民イスラエルの国に初めて王様が誕生した時のお話を聞きました。王様が出現することは、聖書の中で告げられていたことでした(創世記17:6、16、申命記17:14、20などを参照)。それでは、質問に答えながら、分かち合いましょう。

○新しく王様が欲しいと求めたのは誰ですか？

○王様は誰が決めましたか？

○王様に選ばれたしるしとして、誰がどんなことをしましたか？

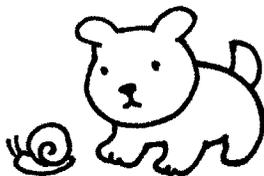
○サウルは自分が王様になる能力があると思っていたでしょうか？

○サウルは王様になる前、何をしていましたか？

○神様はわたしたち一人ひとりを神様の働きのために選んでくださっています。私たちはどんな働きで神様のお手伝いができるのでしょうか？

〈祈り〉

天の父なる神様、わたしのような者でも、神様のお仕事のお役に立てることをありがとうございます。神様の御声に聞き従って、あなたにお仕える者とならせてください。



〈ねらい〉

歴史の流れの中に表わされる神さまの救いの御意思に信頼し、自分たちもその流れの中にいることを覚える。

〈子どもカテキズム〉

問13 神さまの摂理のお働きとは何ですか。

答 今、私たちに働く、神さまの善いお力のことです。

神さまのお許しがなければ髪の毛一本も落ちることができないほどに、神さまは私たちの父として私たちを守ってくださいます。

ですから、健康も病気も、嬉しいことも悲しいことも、すべてのことが私たちの役に立つよう働くのです。

問21 神さまは、あなたもほかの人も、罪人を滅びるままにお見捨てになりましたか。

答 いいえ、ちがいます。

神さまは、神の民となるように最初から私たちを選んでくださいました。

罪から救い出してくださるあがない主を与えてくださったのです。

〈展開例〉

○年老いたサムエルが自分の後継者として任命したのは誰だったか、また、その結果はどうであったかを確認しよう。

→自分の息子たちをイスラエルのために裁きを行う者として任命したが、彼らは誤った道を歩んだ。

○民がサムエルに求めたのはどのようなことであつたか、また、サムエルはその求めをどのように受け止めたかを確認しよう。

→民のために裁きを行う王を立てることを民は求めた。しかし、サムエルの目にはそれは悪と映った。

○サムエルの祈りに対して、神さまはどのように応えられたのだろうか。

→「今は彼らの声に従いなさい。ただし、彼らにはっきり警告し、彼らの上に君臨する王の権能を覚えておきなさい」

○サムエルはどのようにイスラエルの王を選んだのだろうか。またその際に何を行ったか。

→神さまがサムエルにサウルが王となることを告げられた。9章16～17節『明日の今ごろ、わたしは一人の男をベニヤミンの地からあなたのもとに遣わす。あなたは彼に油を注ぎ、わたしの民イスラエルの指導者とせよ。……』サムエルがサウルに会うと、主は彼に告げられた。『わたしがあなたに言ったのはこの男のことだ。この男がわたしの民を支配する』。

→サムエルは、サウルの頭に油を注ぎ、主がサウルを神の民の指導者としてたてられたことを宣言した。油を注ぐのは神さまから特別な務めが与えられたことのあるしである。「油注がれた者」は、旧約では「メシア」、新約では「キリスト」という称号となる。

